

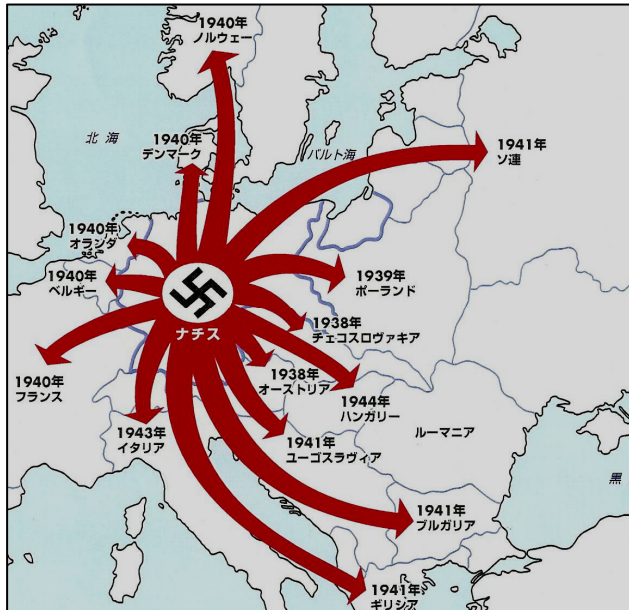
小学生のみなさんへ

## かくれ家で日記を書いた少女 アンネ・フランク (1929-1945)



ドイツ生まれ。ユダヤ人だったアンネ一家4人は、ナチスの迫害から逃れようとオランダに移り住みます。2年間、外に一步も出られない隠れ家の中で、アンネは家族や社会について考えた

ことや、平和への願いを日記につづりました。アンネは捕まって、15年の短い人生を収容所で閉じましたが、『アンネの日記』はいまも世界の人びとに生きる勇気を与えつづけています。



ホロコーストは、ドイツ、ポーランドなどを中心にひろくヨーロッパ20数ヶ国でおきたできごとです。

もっとくわしくしらべてみよう!

### ◆ ホームページをみる

NPO法人ホロコースト教育資料センター

[www.ne.jp/asahi/holocaust/tokyo](http://www.ne.jp/asahi/holocaust/tokyo)

ホロコースト記念館

[www.urban.ne.jp/home/hecjpn](http://www.urban.ne.jp/home/hecjpn)

アンネ・フランク資料館

[www.annesrosechurch.com/kannai\\_01.htm](http://www.annesrosechurch.com/kannai_01.htm)

杉原千畝記念館(岐阜県八百津町)

[www.town.yaotsu.lg.jp/sugiharatiune/kinenkan.html](http://www.town.yaotsu.lg.jp/sugiharatiune/kinenkan.html)

### ◆ 本をよむ

♪「アンネの日記」アンネ・フランク著(文藝春秋)

♪「あのころはフリードリヒがいた」

ハンス・ペーター・ヒター著、上田真而子訳(岩波書店)

♪「なぜ、おきたのか—ホロコーストのはなし」

クライヴ・A・ロートン著、大塚信訳、石岡史子訳(岩崎書店)

♪「テレジン収容所の小さな画家たち詩人たち」

野村路子著(ルック)

♪「トミーが3歳になった日」

ミース・パウハウス文、よこやまかずこ訳(ほるぷ出版)

♪「杉原千畝物語 命のピザをありがとう」

杉原幸子、杉原弘樹著(金の星社)

♪「エーディットここなら安全よ」

キャシー・ケイサー著、石岡史子訳(ポプラ社)

♪「ウツラの小さな抵抗」

インゲ・クロー著、批谷玲子訳(文研出版)

♪「ガイドブック『アンネの日記』を訪ねる」

黒川万千代編著(新日本出版社)

♪「コルチャック先生」近藤康子著(岩波ジュニア新書)

♪「子どもたちのホロコースト」

ローレル・ホリデイ著、横山緞子訳(小学館)

♪「ハンナのかばん—アウシュビッツからのメッセージ」

カレン・レビン著、石岡史子訳(ポプラ社)

2003年小学校高学年課題図書



# ホロコースト ってなに?

かくれ家で日記を書いた  
アンネ・フランク



私は平和を作り出していくには、まず、ホロコーストのおそろしさ、また「命」というものの尊さを知らなければならないと思います。そして、アンネのように平和のために働きたいと思う「心」が大切だと思います。

上田暖さん(小6)

'98 アンネ平和賞受賞作文より

NPO法人ホロコースト教育資料センター

〒160-0015 東京都新宿区大京町 22-1 HAKUYOHビル 6階

TEL & FAX : 03-5363-4808

Eメール: [holocaust@tokyo.email.ne.jp](mailto:holocaust@tokyo.email.ne.jp)



エヌピーオーほうじん  
NPO 法人

ホロコースト教育資料センター

[www.ne.jp/asahi/holocaust/tokyo](http://www.ne.jp/asahi/holocaust/tokyo)

# ホロコーストってなに？

世界をまきこんだ戦争、第二次世界大戦（1939～1945年）と同じときにおきた、ナチス・ドイツによるユダヤ人虐殺の事です。

いまから約60年前（1933～1945年までの13年間）、みなさんの おじいさんや おばあさんがまだ若かったころ、ヨーロッパでほんとうにおきたできごとです。



チェコでくらしていたハンナとジョージのきょうだいも収容所へつれていかれました

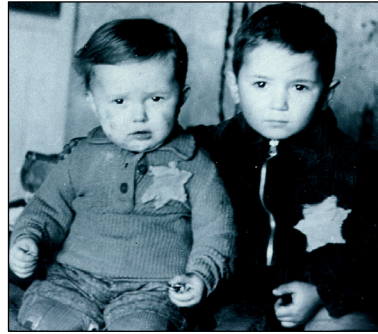
そのなかには、みなさんと同じようにゆめと希望をもって生きていた150万人もの子どもたちがいました。

ナチスのリーダー、アドルフ・ヒトラー。



「ユダヤ人は悪い人間だ、おいだせ！」とさげました。

ユダヤ人のほかにも、ナチスに反対した人や障害をもった人たち、ロマ（ジプシー）たちがたくさん殺されました。



差別のしるし

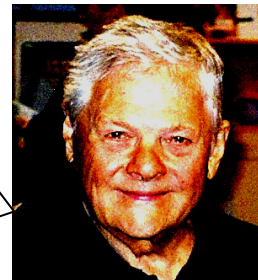
ユダヤ人は、服に星のマークをつけるように命令されました。

ホロコーストはなぜおきたんだろう？



人間には、「自分とちがうもの」を受け入れられない弱さがあるってことじゃ。世界には、いろんな文化や宗教をもつ人たちがいる。みんなの周りにも、いろんな考え方がいる。どうすれば、仲よくやっていけるのが、考えてみよう。

一人ひとりが  
だいじな命だよ。  
広い心で  
友達になろう！



ホロコーストを生きのびたハンナの兄、ジョージさん

しってる？こんな人がいた！

6千人の命を救った杉原千畝(1900-1986)



ホロコーストの時代に、命がけでユダヤ人を助けた正義の人たちが世界に約2万人いました。その中の一人、日本人外交官の杉原千畝は日本へのビザ（国に入ってもよいとする許可証）を発行して6千人の命を救いました。

アンネのかくれ家生活を助けたミープ・ヒースさんのメッセージ

アンネ・フランクの悲劇を通して学ぶことは、私たちは人びとをひとまとめに考えてはいけないということです。

当時、ドイツの家庭や学校で、子どもたちは、親や先生が「あのアメリカ人」「あの日本人」「あのユダヤ人」という言いかたで話すのを聞いて育ちました。その結果、子どもたちはすべてのユダヤ人が同じことを考え、同じように行動すると思ってしまいました。大人になってもそう信じていました。

みなさんにお願ひしたいのは、一人ひとりの人間を、一人ひとりとして見てほしいのです。どうか、その人が何を言い、何をしたかにもとづいて考えてみてください。うわさや、かたよった見方に左右されずに。

